

PB-24. 高感度 CRP (h-CRP) と冠危険因子の関連

(霞ヶ浦・循環器科)

○荻野 崇、阿部 正宏、栗原 正人
飯野 均、廣瀬 健一、藤縄 学
三津山勇人、森崎 倫彦、塩原 英仁
後藤 知美

(内科学第二)

○山科 章

【目的】高感度 CRP(h-CRP) と冠危険因子の関連を検討すること。【背景】h-CRP は不安定プラークの predictor として有用性が報告されているが、種々の冠危険因子との関連を知ることで虚血性心疾患発症リスクの検出により有用である可能性がある。【方法】対象は虚血性心疾患の既往が無い高血圧、高脂血症、不整脈性疾患とボランティアの計 181 例 (男性 92 例、女性 89 例、年齢 57.8 ± 12.5 才)。採血は安静空腹時に行った。h-CRP の閾値を 1200 ng/ml として 2 群に分け検討した。【結果】h-CRP 高値群と低値群の間に、BMI (24.7 ± 3.7 vs 27.1 ± 3.7)、HDL (62.1 ± 13.3 vs 56.0 ± 16.3)、TG (126.7 ± 13.3 vs 185.7 ± 193.7)、FBS (105.0 ± 20.3 vs 124.8 ± 44.0)、HbA1c (5.3 ± 0.7 vs 6.0 ± 1.5)、血中インスリン (8.2 ± 5.0 vs 11.3 ± 6.6)、BNP (26.1 ± 34.0 vs 48.0 ± 89.2) において有意差を認めたが ($p < 0.01$)、年齢、血圧、喫煙率、総コレステロール量には差を認めなかった。冠危険因子 (高血圧、高コレステロール血症、喫煙、糖尿病、肥満) の保有数は h-CRP 高値群で 2.3 ± 0.5 であり、低値群の 1.3 ± 0.2 に比し有意に多数であった ($p < 0.01$)。【結論】虚血性疾患の既往の明らかでない患者において、多数の冠危険因子を有す症例は h-CRP が高く、より注意深い管理が必要と考えられた。

PB-25. 冠動脈バイパス術における右胃体網動脈、内胸動脈の術中断端圧の比較

(外科学第二)

○岩橋 徹、菊池祐二郎、三坂 昌温
清水 剛、平山 哲三、石丸 新

【目的】現在、冠動脈バイパス術 (CABG) において内

胸動脈 (ITA) と右胃体網動脈 (RGEA) が in situ 動脈グラフトとして使用されているが、PGEAの方が開存率が劣るとの報告がある。今回、ITA と PGEA の術中の断端圧を同時に測定し、PGEA のグラフトとしての血液供給能について検討した。

【方法】2001 年 10 月より 2002 年 11 月の間に ITA、PGEA を in situ 動脈グラフトとして使用した CABG 15 例を対象とした。(平均年齢; 65、男女比; 13:2、Standard CABG:Off-pump CABG; 5:10) 術前併存症は、本態性高血圧 14 例、高脂血症 9 例、2 型糖尿病 8 例、閉塞性動脈硬化症 3 例、脳血管障害 4 例であった。断端圧の測定方法は ITA、PGEA を採用し、各グラフトに milrinone のグラフト内注入、papaverine hydrochloride のグラフトへの散布を行い、ITA、RGEA と Control として右撓骨動脈の同時断端圧の測定を施行した。統計処理方法は Paired-T-test を用い有意差の検定を行った。

【結果】同時圧を測定した 15 例中、ITA > RGEA; 11 例、ITA = RGEA; 2 例、ITA < RGEA; 2 例であり、平均圧較差は 4.5 mmHg であった。Paired-T-test の結果、平均断端圧において $P = 0.009$ ($P < 0.05$) と RGEA の断端圧が有意に低値であった。RGEA の distal 吻合はそれぞれ、4PD; 8 例; 4AV; 2 例、RCA #3; 2 例、PL; 1 例、Sequential PL-HL; 1 例、4PD-PL; 1 例を施行した。術後 1 ヶ月後に確認造影を施行した 9 例全てに RGEA の開存が認められた

【結語】RGEA の断端圧は ITA 比し有意に低値を示し、このことが、RGEA が Flow competition を起こしやすい一因と考えられた。

PB-26. 新型気管支ブロッカーチューブを用いた HFJV による麻酔管理

(八王子・麻酔科)

○森本 恵爾、曾我部 豊、高橋 俊明
武藤 孝夫、白石としえ、白田 美穂
内野 博之、金子 英人、近江 明文
石井 脩夫

【はじめに】今回、喉頭微細手術 (LMS) の麻酔に、新型の細径硬性チューブであるクーデック気管支ブロッカーチューブ (大研医機社製) を用いた高頻度ジェット換気 (HFJV) による呼吸管理を全静脈麻酔